マヤ南部地域で“PEDESTAL”と呼ばれる石彫について

伊　藤　伸　幸

はじめに

多彩な石彫文化がカミナルフユ遺跡を中心とする先古典期の南部マヤ地域で花開いた。しかし，古典期のマヤ低地ではパターン化した石碑と祭壇石の組合せによる石彫文化しかない。ところで，マヤ南部地域の様々な石彫のなかで“PEDESTAL”と呼ばれる石彫がある。この“PEDESTAL”石彫は軸若しくは台座を持つ石彫とされ，メソアメリカのみならずメソアメリカ地域以外にも分布している。今までに，“PEDESTAL”石彫を中心にして論じている研究はないが，石彫研究の一部として“PEDESTAL”石彫を考察している研究はみられる。以下，“PEDESTAL”石彫に関する研究をまとめ，その問題点を探る。

ロスロップ（Lothrop, 1921）はニカラグアの石彫に関する研究でメキシコ南部からコスタ・リカにかけて分布する様々な石彫群は一つにまとめることができ，比較的古い時期に属するとしている。このなかで，メキシコ南部の柱状部分（軸部）にのる人物若しくは動物を表現する石彫とニカラグア出土石彫との類似を指摘している。

リチャードソン（Richardson, 1940）は非マヤ的石彫を集成した研究のなかで柱の上にのる人物若しくは動物を表現する石彫を紹介し，これらの石彫がニカラグアの石彫の影響を受けた可能性を示している。

マイルズ（Miles, 1965）はマヤ南部地域の石彫編年に関する研究を行っている。石彫を先古典期（B.C.1500-200A.D.），古典期前期（200-700A.D.），古典期後期（700-1000A.D.），後古典期前期（1000-1200A.D.），後古典期後期（1200-1530A.D.）の各時期に分類し，更に先古典期をカミナルフユ遺跡の土器編年に従って4区分している。このなかで，軸部を持つ石彫を“PEDESTAL”とし，軸部破片の出土例（カミナルフユ遺跡PEDESTAL 1, 2）より先古典期の第2期に出現したとし，“PEDESTAL”石彫台座部の渦巻文浮彫などから，ベンチに座る人物を表現した石彫とは関連があるとしている。“PEDESTAL”石彫はマヤ高地，ホンジュラス，エル・サルバドルからメキシコのチアパス州トナラ遺跡までの太平洋岸，テワンテペック地峡地帯，メキシコ湾岸地域のトレス・サポテス遺跡近くのトラパコヤ遺跡まで分布することを示している。このなかで，“PEDESTAL”石彫は下部に柱状部分を持つ石彫から柱状の石に浮彫を施したのみの石彫までを含んでいる。“PEDESTAL”石彫に幅広い定義を与えているせいかもしれないが，“PEDESTAL”石彫が長い歴史を持つ可能性を指摘している。また，石像部分と軸部分とが明

確に区別できない柱状の石彫とコスタ・リカやニカラグアから出土した柱状の石彫との関連を検討し，これらの石彫は時期が新しいとしている。そして，このニカラグア地域でみられる“PEDESTAL”石彫は後古典期の太平洋岸地域に分布することを指摘している。

パーソンズ（Parsons, 1986）はカミナルフユ遺跡出土石彫を中心にしてマヤ南部地域の石彫編年を試みている。ミルブラス（Milbrath, 1979）のオルメカ文化石彫編年の大枠を踏襲し型式学的分類を考古学的データで補足するとしている。オルメカ前期（B.C.1250-900）オルメカ期後期（B.C.900-700）過渡期（B.C.700-500）後オルメカ期（B.C.500-200）イサパ期（B.C.200-200 A.D）古典期前期（200-400A.D.）メキシコ期前期（400-950A.D.）メキシコ期後期（950-1550 A.D.）の8時期に分類している。このなかで，“PEDESTAL”石彫を下部に軸部のある石彫とし，イサパ様式の原型やオルメカ文化起源の石彫がみられる過渡期に他の様々な石彫とともに出現するとしている。“PEDESTAL”石彫は短い軸部や長い軸部をもつ事例があり，長い軸部を持つものは後オルメカ期までつくられ，その後メキシコ期後期に再び作られるようになったとしている。しかし，型式学的分析が中心となっており，層位学的な検証はしていない。

ロスロップとリチャードソンの研究ではマヤ南部地域の柱状部分にのる人物若しくは動物を表現する石彫について論じている。また，資料が少ないせいもあるがニカラグア出土の石彫との比較に終わっている。マイルズの研究では“PEDESTAL”石彫を下部に軸部のある石彫とし，柱状の石に浮彫が施された石彫まで“PEDESTAL”石彫に含めた。また，パーソンズの研究でもこのマイルズの“PEDESTAL”石彫の定義を踏襲したため，メソアメリカ石彫文化における“PEDESTAL”石彫の位置は甚だ曖昧になってしまった。この小論では，“PEDESTAL”石彫から像部，台座部，軸部の3つの部分で構成される石彫を分離し，その編年的位置づけとその分布の意味を探る。また，これらの石彫を台座付柱状石彫とする（図1）。

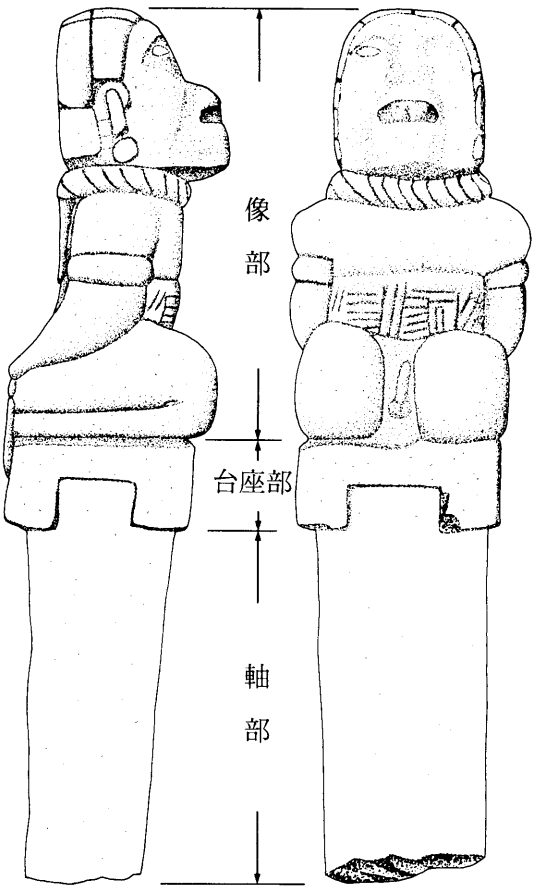

図1　台座付柱状石彫模式図

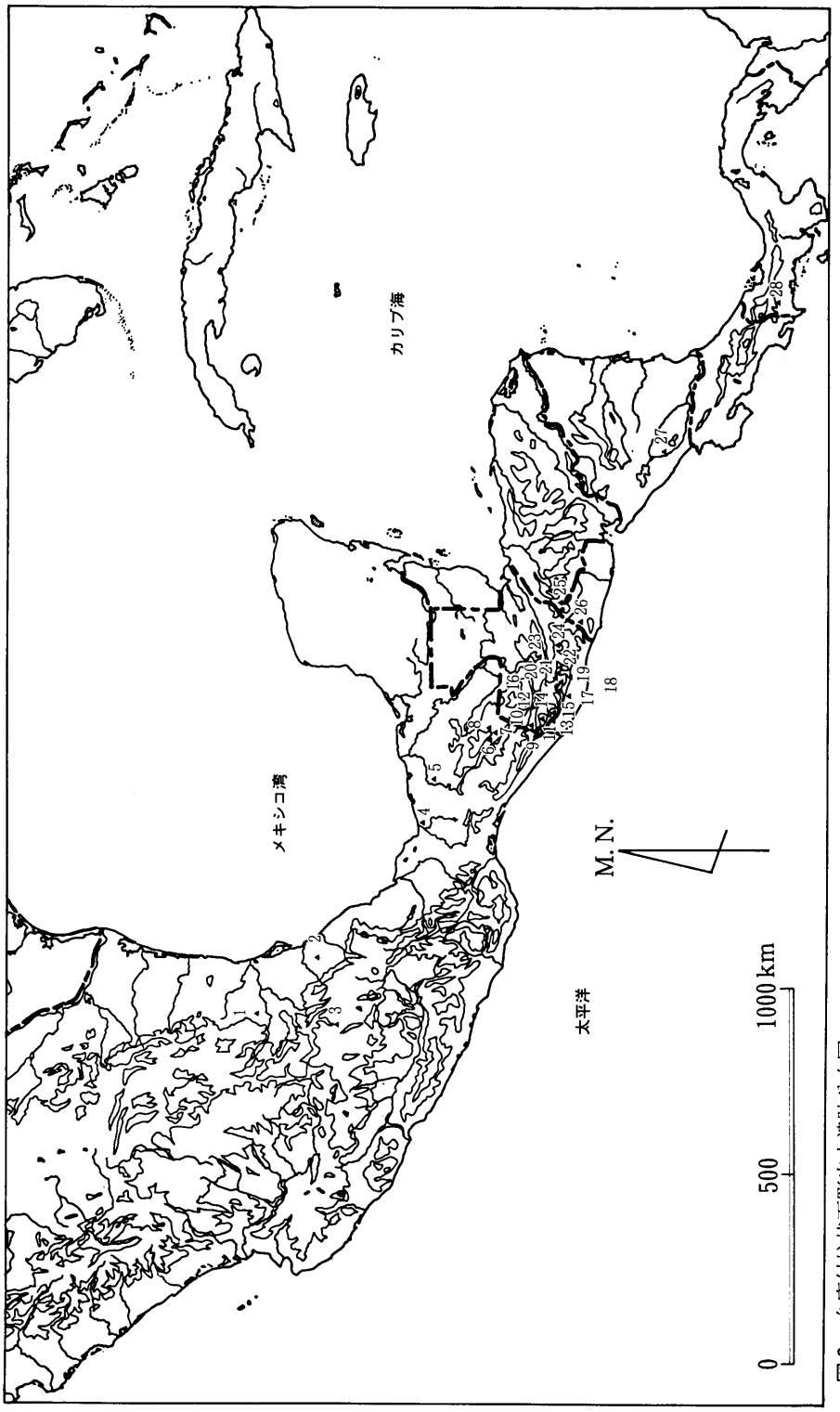

図2　台座付柱状石彫出土遺跡分布図

1. リオ・タムイン，2. カスティヨ・デ・テアヨ，3. トゥーラ，4. ラ・ベンタ，5. エル・トルニヨ，6. コミタン，7. テナン・ロサリオ，8. フィンカ・サン・マテオ，9. イサパ，10. シピナル，11. エル・シティオ，12. タフムルコ，13. コアテペケ，14. アバフ・タカリク，15. サン・フランシスコ・サポティトラン，16. フィンカ・チカヤル，17. ティキサテ，18. ピルバオ，19. エスクィントラ，20. パッソン・チマルテナンゴ，21. カミナルフユ，22. サン・ホセ・ピヌーラ，23. エル・ポルトン，24. ハラパ，25. オコテペケ，26. チャルチュアパ，27. サパテラ島，28. ロス・バリレス

台座付柱状石彫の地理的分布と出土状態

台座付柱状石彫は出土地が判明している範囲では，北はメキシコ　ベラクルス州のメキシコ湾岸からテワンテペック地峡を通りメキシコ　チアパス州，エル・サルバドルの太平洋側斜面にかけて分布し，少し離れてニカラグアのサパテラ島そしてパナマのロス・バリレス遺跡がその南限となる（図２）。また，ハリスコ州立博物館の出土地不明の事例（Williams, 1992, fig.66）がその周辺地域から出土したものなら，その北限はメキシコ西部地方にまでのびる。また，軸部の破片は透かし彫り石彫など軸部を持つ石彫破片の可能性も考えられるが，その長さや調整より柱状台座付石彫の軸部と考えられる資料を収集した。また，軸部が無く像部と台座部の破片若しくは像部のみの破片については同じ器形の台座付柱状石彫から破片と判断できるものを収集した。以下，北から順に出土地の判明している台座付柱状石彫を説明する。

リオ・タムイン遺跡―図４．１

角柱状軸部の上に方形台座をつくる。台座に正座し膝に両手を置いている人物が表現されている。セムシで褌と頭飾りを着けている。出土状況等は不明である（Fuente y Nelly Gutierrez, 1980; Trejo, 1989)。

カスティヨ・デ・テアヨ遺跡

MONUMENT 32―Trejo, 1989, lamina 36

角柱状軸部上部に線刻を施し台座部を表現している。台座上には両膝を抱えて座る人物が表現される。褌を着けている。頭部を欠く。出土状況等は不明である（Trejo, 1989)。

トゥーラ遺跡―図４．２

角柱状軸部の上に幾何学文が側面に浮彫される方形台座をつくり，その上には着飾って立つ人物が表現される。出土状況等は不明である（Fuente, Trejo y Gutierrez Solana, 1980)。また，この遺跡は古典期後期から後古典期の時期に属する。

ラ・ベンタ遺跡

先古典期前期から先古典期中期の遺跡である。

MONUMENT 40―写真１．１

角柱状軸部の上に横長の方形台座をつくり，その上に足を投げ出して座る人物を表現している。浸食のためか細部は不鮮明になっている。スターリングのアクロポリス北東部，この遺跡最期の床面直上若しくは直下でMONUMENT 39（胴部破片），41（ジャガーの石像），44（頭部破片）とともに出土した（Heizer, Graham. and Napton., 1968)。以上のことから先古典期中期以前の

時期につくられたと考えられる。

エル・トルニヨ遺跡

MONUMENTO 1—Navarrete, Lee y Silva Rhoads, 1993, fig.33, 34

角柱状軸部の上にやや低い方形台座をつくり，その上に腕を組む人物の立像がのる。頭部を欠く。古典期後期の14号建造物近く，祭壇と関連して，二つに割れた状態で出土した（Navarrete, Lee y Silva Rhoads, 1993)。

コミタン遺跡—図4．5

角柱状軸部の上に低い方形台座をつくり，その上に椅子状台座をつくる。椅子状台座には頭飾りを着けた人物が座る。出土状況等は不明である（Lothrop, 1921)。

フィンカ・サン・マテオ遺跡—図4．4

角柱状軸部の上に方形台座をつくる。軸部と台座部側面には幾何学文の線刻が施される。台座上に両手を胸にあて両膝を立てた人物が座る。また，上腕部には腕飾りが表現され，右耳部分から頬にかけて赤色顔料が付着している。出土状況等は不明である（Navarrete, 1967)。

テナン・ロサリオ遺跡—図4．3

方形台座に座るオポッサムの破片である。出土状況等は不明である（Navarrete, 1967)。

イサパ遺跡

MISCELLANEOUS MONUMENT 4—図4．6

角柱状軸部の上に線状の浮彫を上下端に施した方形台座をつくり，その上に正座をした人物を表現している。腰より上を欠く。両膝の間に褌がある。出土位置より，小基壇（113号建造物）の中央に立っていたとし，古典期後期に再度この石彫を立てたと考えている。この建造物が位置するＦグループは古典期後期～後古典期前期の時期に属する（Lowe, Lee and Martinez Espinosa, 1982)。

MISCELLANEOUS MONUMENT 41—Norman, 1976, fig.5.66

方形台座上に座るジャガーである。台座部と像部の破片である。古典期後期～後古典期前期の時期に属するＦグループのマウンド内より出土した（Norman, 1976; Lowe, Lee and Martinez Espinosa, 1982)。

MISCELLANEOUS MONUMENT 42—Norman, 1976, fig.5.67

角柱状軸部の破片である。古典期後期～後古典期前期の時期に属するＦグループの125号マウンド近くの62号石碑西のピットより出土した（Norman, 1976; Lowe, Lee and Martinez Espinosa, 1982)。

MISCELLANEOUS MONUMENT 43

角柱状軸部の破片である。古典期後期～後古典期前期の時期に属するＦグループの125号マウンドの表面に散らばっている砕石のなかより出土した(Norman, 1976; Lowe, Lee and Martinez Espinosa, 1982)。

シビナル遺跡—写真１．４

角柱状軸部の上に四脚付方形台座をつくり，その上には両手を後ろ手に縛られた正座する人物が表現される。方形台座は二段になっている。もう一点は，角柱状軸部の上に方形台座，その上に座るジャガーが表現されている。出土状況等は不明である。

エル・シティオ遺跡—図９．２

角柱状軸部の上に方形台座がつくられ，その上に座るジャガーが表現される。格子文が線刻される棒状の頭飾りを着けている。出土状況等は不明である。

タフムルコ遺跡—図４．７

円柱状軸部の上に幾何学文の線刻が側面に施される方形台座をつくる。その上には立て肘をつき両膝を立てて座る人物が表現される。タフムルコの石彫と報告されているのみで大きさや出土状況は不明である（Tejeda, 1947)。出土遺物より後古典期の遺跡とされる（Dutton and Hobbs, 1943)。

コアテペケ地域

３点の台座付柱状石彫が出土している。２点はほぼ同形で，角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に座る猿が表現される。猿はせりでた腹に両手をあて，首には首輪状のものが表現される（写真４．６)。もう１点は角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に座るジャガーが表現される。また，突起のついた棒状の頭飾りを着けている。出土状況等は不明である。

アバフ・タカリク遺跡—図９．４

円柱状軸部の上に渦巻文の浮彫が施された二脚付方形台座をつくり，その上に座ったジャガーが表現される。頭部を欠く。出土状況は不明である。

サン・フランシスコ・サポティトラン遺跡—図8．2

角柱状軸部の上に四脚付方形台座がつくられ，その上に座ったジャガーが表現される。方形台座は2段になっている。出土状況等は不明である。

フィンカ・チカヤル遺跡—Lothrop, 1933, fig.63

独立した1基のマウンドの上より，3点出土したと報告されている。また，他にジャガー形象横ホゾ付石彫1点が出土している（Lothrop, 1933)。

1）角柱状軸部の上に方形台座をつくりその上に頭部を欠く跪く人物が表現される。

2）円柱状軸部の上に円形台座をつくりその上に跪く人物が表現される。

3）台座にひざまずく人物を表現する台座付柱状石彫とのみ報告されている。

ティキサテ遺跡

2点出土している。出土状況等は不明である。

1）角柱状軸部の上に渦巻文の浮彫が施された方形台座をつくり，その上に座るジャガーが表現される（写真2．3)。

2）円柱状軸部の上に低い方形台座をつくり，その上に両手を腹にあて座る猿が表現される（写真4．7)。

その他にもう1点ティキサテーデモクラシア間の道路工事中に出土した台座付柱状石彫がある。あまり整形されていない角柱状軸部の上に四脚付方形台座をつくり，その上に両膝を抱えて座る猿が表現される。頭にはドーム状の帽子を被り，首には首輪状のものがかかる（図11．3)。

ビルバオ遺跡

古典期中期と古典期後期の遺構が検出されている。また，数キロ離れた遺跡エル・バウルでも古典期の遺構は知られているが，先古典期の遺構は検出されておらず少量の遺物のみが出土している（Parsons, 1967; Parsons, 1969)。しかし，先古典期後期の日付を持つ石碑が一点出土しており，この遺跡が位置するサンタ・ルシア・コツマルワパ地域に先古典期の建造物等が埋もれている可能性はある。

MONUMENT64—Parsons, 1969, fig.48e

角柱状軸部の破片とされる。古典期後期の石碑が林立した広場（MONUMENT PLAZA）中央で他の石彫の破片とともに出土した（Parsons, 1967; Parsons, 1969)。

MONUMENT68—Parsons, 1969, fig.48f

角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に翼をたたんだ鳥が表現されている。過去の出

土状況から報告者はMONUMENT PLAZAにあった可能性を指摘している（Parsons, 1967; Parsons, 1969)。

サンタ・ルシア・コツマルワパ地域—図5．3

ビルバオ遺跡が位置するサンタ・ルシア・コツマルワパ地域では台座付柱状石彫がもう1点出土している。角柱状軸部の上に四脚付方形台座がつくられ，その上に左膝を立てて跪く人物が表現される。台座の前面と背面には渦巻状の浮彫が施されている。出土状況等は不明である。

エスクィントラ地域—図5．4

角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上には両手を膝に置き右膝を立てて跪く人物が表現される。その人物は右目を閉じ，舌を出している。また，男性器も表現されている。

パトゥン・チマルテナンゴ遺跡—図9．1

角柱状軸部の上に四脚付方形台座をつくり，その上に両手を後ろ手に縛られ首に縄がかけられ正座する人物が表現される。腕輪，耳飾りと腹部にも装身具が着けられる。男性器が表現される。

カミナルフユ遺跡

PEDESTAL 1, 2

ともに軸部の破片である。C—Ⅲ—6号マウンド頂部の床面に掘られた深さ1.4mのピット底部に巨大な板状岩が置かれ，その周辺から3基の柱状玄武岩，9号石碑，PEDESTAL 1, 2が出土した。PEDESTAL 1は立った状態で検出された。他に，70点の土器，290点のヒスイ製ビーズとヒスイ製垂飾が入った鳥(?)の頭蓋骨，ヒスイ製垂飾，23点の小ビーズ，モザイクの部分が出土した。また，ピットの底部は焼けており，灰や炭化物が残っていた。これらの炭化物のなかには儀礼的に壊されたと考えられる土器の破片が散らばっていた。ピットの下を更に発掘したところラス・チャルカス期の土器片が出土した。また，ピット内から出土した土器はサカテペケス期前期に属している（Shook, 1951)。以上のことから先古典期中期以前にPEDESTAL 1, 2はつくられたと考えられる。

PEDESTAL 3—図9．3

角柱状軸部の上に四脚付方形台座をつくり，その上に尻尾を後ろに垂らし座るジャガーが表現される。先古典期後期（ベルベナ期）のE—Ⅲ—3号建造物内より出土した（Parsons, 1986)。PEDESTAL 3は先古典期後期以前につくられた。

PEDESTAL 5

PEDESTAL 3と同形である。出土状況等は不明である（Parsons, 1986)。

PEDESTAL 6—図6

角柱状軸部の上に渦巻文の浮彫が施された四脚付方形台座をつくり，その上に左膝を立て座る人物を表現している。足より上の部分が欠けている。古典期後期までの建造物が知られているアクロポリス（C—II—4）の直ぐ北側より出土した。出土状況等は不明である（Parsons, 1986)。

PEDESTAL 7—図7．1

正面に円形に線刻が施された角柱状軸部の上に渦巻文の浮彫を側面に施した四脚付方形台座をつくり，その上に足を投げ出して座る人物を表現している。足先部分と腰から上の部分がない。足首部分の突起，脚の後ろの方形部分，後ろに垂れ下がる尻尾のようなものは衣装の一部分である可能性が高い。古典期後期までの建造物が知られているアクロポリス（C—II—4）の直ぐ北側より出土した。出土状況等は不明である（Parsons, 1986)。

その他にもカミナルフユ遺跡では柱状台座付石彫は少なくとも4点出土している。

1）角柱状軸部の上に渦巻文の浮彫が前面と背面に施された四脚付方形台座をつくり，その上に右膝を立てて跪く人物を表現している。胴部より上を欠く。調査担当者によれば，先古典期中期—後期の遺物を含む層から出土したとのことである（図5．5)。

2）角柱状軸部の上に渦巻文の浮彫が前面と背面に施された四脚付方形台座をつくり，その上に座るジャガーを表現している。出土状況等は不明である。

3）角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に左膝を立てて跪く人物が表現されている。出土状況等は不明である（図5．2)。

4）円柱状軸部の上に幾何学文が浮彫された円形台座をつくり，その上に人物を表現している。尻尾状に垂れ下がる衣装と足の部分が若干残る。出土状況等は不明である（図7．2)。

サン・ホセ・ピヌーラ遺跡—写真1．3

角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に足を投げ出して座る人物が表現される。帽子，耳飾りと胸飾りを着けている。全体的に角張っている。地表下2メートルで出土したと報告されているが，それ以外の出土状況等は不明である。

エル・ポルトン遺跡

MONUMENT 5—Sharer and Sedat, 1987, fig.18.6

跪く人物像部と方形台座部，角柱状軸部の破片である。ケフ期（0-200A.D.）のJ7-4B-3建

造物の床に掘りこまれたピットより22号供物（緑石玉31点，ヒスイ製管玉１点とヒスイ破片15点）とともに出土した（Sharer and Sedat, 1987)。以上のことより，この石彫はこの建造物が建てられた先古典期後期以前につくられたと考えられる（図３)。

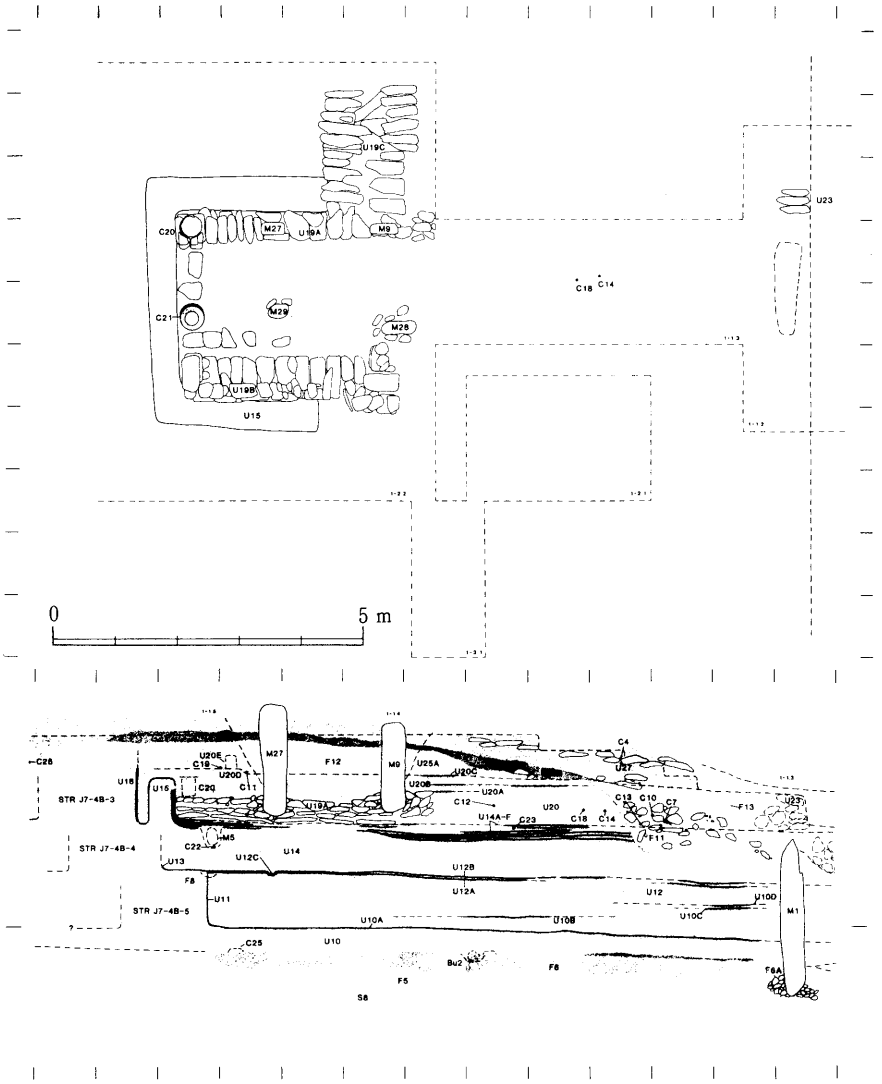

図３　エル・ポルトン遺跡

MONUMENT 1, 5, 9, 27出土状態図（Sharer and Sedat, 1987, fig.3.8, 12を改変）

MONUMENT 10（図８．１)，11（写真１．８）

MONUMENT 10は角柱状軸部と四脚付方形台座をつくり，その上に正座する人物を表現して

いる。MONUMENT 11は四脚付方形台座に座り胸で手を交差させている頭部を欠く人物を表現している。MONUMENT 1（石碑）とともに出土している（Sharer and Sedat, 1987)。トル期(B.C.500-200）の床面にMONUMENT 1が建てられていたこと，後にウク期（B.C.200-0），ケフ期の建造物がその上に建てられたことから（図3），先古典期後期以前にMONUMENT 10, 11はつくられたと考えられる。

MONUMENT 12（Sharer and Sedat, 1987, fig.18.9), 22（図5．6），23

MONUMENT 12は頭部を欠く四脚付方形台座に座る人物，MONUMENT 22は頭部を欠く片膝を立てて四脚付方形台座に座る人物，MONUMENT 23は方形台座に足を投げ出して座る人物を表現する台座付柱状石彫の破片である。出土状況等は不明である（Sharer and Sedat, 1987)。

MONUMENT 9, 27（Sharer and Sedat, 1987, fig.18.33)

角柱状軸部の可能性があるとされる。J7-4b-2建造物（ケフ期）の敷石部分から立った状態で出土した（図3，Sharer and Sedat, 1987)。

ハラパ遺跡—写真4．1

やや楕円形に近い円柱状軸部の上に籠状の浮彫が施された台座をつくり，その上にはせりだした腹に手をあてて立つオポッサムを表現している。鉢巻状の頭飾りを着けている。出土状況等は不明である。

オコテペケ地域—図4．8

角柱状軸部の上に方形台座をつくり，その上に座るジャガーを表現している。出土状況等は不明である（Richardson, 1940)。

チャルチュアパ遺跡—図10

カサ・ブランカ地区の5号建造物（C3-6）と6号建造物（C3-7）に囲まれた広場部分から出土した。表土より一部分が出ていた。この石彫に関連する発掘調査は行われていない。

サパテラ島，ニカラグア湖—Stone, 1976, p.151

あまり整形されていない角柱状軸部の上部を彫り込んで台座をつくり，その上に膝を抱えて座る猿が表現されている。台座の側面には格子文が線刻されている。出土状況等は不明である(Stone, 1976)。

サパテラ島，ニカラグア湖—Baudez, 1976, fig.80

円柱状軸部にやや高い円形台座をつくり，その上に両膝を立てて座る人物を表現している。出土状況等は不明である（Baudez, 1976)。

ロス・バリレス遺跡—図4．9

やや楕円形の円柱状軸部に低い円形台座をつくり，その上には裸の人物に肩車された人物が表現される。上の人物は尖り帽子を被っている（Brook & Minardi, 1976)。

チリキ地域，パナマ—Brook & Minardi, 1976, No.134

やや楕円形の円柱状軸部に低い円形台座をつくり，その上に尖り帽子を被り立つ人物が表現される（Brook & Minardi, 1976)。

ま と め

軸部については円柱状12点と角柱状60点である。角柱状軸部にはやや雑に整形してある事例もあるが，円柱状軸部は一般によく整形されている。幾何学文の線刻や浮彫が軸部に施される事例は少なく，同じ文様はない。一方，グァテマラ高地ではこの小論では扱わなかったが長い円柱状軸部に直接のるジャガーや猿を表現する石彫もある。これらの石彫を考慮すると軸部は像部を高い位置に上げるための装置である可能性が考えられる。

円柱状軸部に対応する台座部は殆どが円形台座である。その側面には浮彫や線刻が施される場合がある。籠状の浮彫が施された円形台座は2点ある。角柱状軸部に対応する台座は総て方形で，方形台座と四脚付方形台座に大体半々に分かれる。装飾も脚もない方形台座はメキシコ　ベラクルス州メキシコ湾岸とマヤ南部に分布している。四脚付方形台座には何も装飾のないもの，台座が二段になるものと前面と背面に一対の渦巻文浮彫が施されたものの3種類ある。単純な四脚付方形台座はグァテマラからエル・サルバドルにかけての太平洋側斜面にみられる。渦巻文が施される四脚付方形台座はカミナルフユ遺跡を中心に分布している。また，渦巻文を単純化したような二段になる四脚付方形台座はカミナルフユ遺跡から少し離れたシビナル遺跡，サン・フランシスコ・サポティトラン遺跡，エル・ポルトン遺跡で出土している。一方，その他に渦巻文の浮彫を施した二脚付方形台座がある。この二脚付方形台座は先古典期における中心遺跡カミナルフユとアバフ・タカリクで出土しており，二つの遺跡の関連を考える上で非常に興味深い。装飾のない単純な四脚付方形台座にこの二脚付方形台座をのせると，渦巻文を前後に浮彫りした四脚付方形台座になる。以上のことを考慮すると，渦巻文の浮彫が施された四脚付方形台座は2部分で構成される可能性が高い。コミタン遺跡出土とされる石彫は唯一椅子状の台座を持っている。一方，椅子形石彫は後古典期に属するタフムルコ遺跡で出土している。また，方形台座にみられる線刻の格子文（図4．7，写真4．8）はハラパの事例にみられる籠状の浮彫を単純化した可能性が考

えられる。

像部に表現されるのは人(36)とジャガー(28)が最も多い。次に，猿(6)とオポッサム(6)が続くが，数は非常に少なくなる。他には，鳥(2)，蛇(1)とワニ(1)がある。人を表現している台座付柱状石彫は，この石彫が分布している全地域にみられる。そのなかで足を投げ出して座る人物像部はラ・ベンタ遺跡（メキシコ湾岸）とカミナルフユ遺跡を中心としたグァテマラ高地にしかみられない。ラ・ベンタ遺跡の事例は殆ど身に何も纏っていないが，グァテマラ高地の事例は着飾った人物を表現している。右膝若しくは左膝を立てて跪く人物像はグァテマラ高地を中心に分布しており，大半のものは腰から上の部分が欠けている。出土地不明であるが，左膝を立てている事例については完形が2例ある。顔が左右で異なっており，右半分は骸骨のように左半分は眼を閉じているように表現されている。また，右膝を立てている事例では右目を閉じて舌を出している。正座する人物像部はメキシコ湾岸地域とイサパ遺跡そしてグァテマラ高地北斜面のエル・ポルトン遺跡まで分布しているが，共通する要素はない。パトゥン遺跡，シビナル遺跡の事例では後ろで手首が縛られる。多くは手首を縛っているが，上腕部を縛っている事例もある。一方，リオ・タムインの事例では頭飾りと褌，イサパ遺跡の事例は褌が確認できる。体の前で両足を折り曲げ座る人物像部はワステカ地域カスティヨ・デ・テアヨ遺跡，マヤ南部そしてニカラグアのサパテラ島にみられるが，他に同じ要素はない。メキシコ中央高原とマヤ南部にみられる人物立像は，量も少なく共通する要素もない。

ジャガーはすべて座像である。また，分布する地域もマヤ南部に限られている。大半が様々な頭飾りを持つ。棒状頭飾りに，突起が付いたり（写真2．1-7），縦溝が彫られたり（写真3．2），格子状の線刻が施されたり（図9．2，写真2．8），鉢巻状の浮彫が施されたり（写真3．1），渦巻状の浮彫が施されたり（写真3．4）している。頭飾りを着けたジャガーのなかには胸飾りをつけている事例もある（写真3．3）。一方，ジャガーの首に縄の首輪が浮彫で表現される事例がある（写真2．2，4；3．6，7）。人の頭を押さえつけているジャガー形象台座付柱状石彫があるが，その人の頭は戦勝首級を表現している可能性も考えられる（写真2．8）。

オポッサムは立像と座像があり，マヤ南部に分布している。立像は頭飾りを着け，せりでた腹に手をあてている（写真4．1，2）。猿は座像のみで，尻尾を後ろで巻いているもの（写真4．6，7）と後ろに垂らすもの（図11．3，写真4．5）がある。また，鳥は翼をたたんだ姿勢で猛禽類のようである（図11．4）。蛇はリボンのように巻きついた形をしている（写真4．8）。ワニのような動物が擬人化された姿を表現している事例もある（図11．1）。

以上から，軸部は圧倒的に角柱状が多く，台座部は方形台座が多い。そして像部は人とジャガーが大多数を占める。渦巻文浮彫のある四脚付方形台座はその量と密度を考慮するとカミナルフユ遺跡が中心となる。一方，単純な方形台座はカミナルフユ遺跡にもみられるが，この台座に座るジャガー形象台座付柱状石彫はマヤ南部太平洋側斜面の西部分に集中している。これが地域差なのか時期差なのかは今の時点では判断できないが，興味深い現象である。

台座付柱状石彫の起源についてはラ・ベンタ遺跡のあるメキシコ湾岸なのかカミナルフユ遺跡のあるグァテマラ高地なのかははっきりしないが，先古典期中期にはつくられ始めていた可能性が高い。しかし，メキシコ湾岸ではラ・ベンタ遺跡以降台座付柱状石彫が継承されないのとは逆に，マヤ南部地域では先古典期中期以降もつくられている。このことを考慮すると，マヤ南部地域にその起源を持つ可能性が高い。また，エル・ポルトン遺跡先古典期後期の J7-4A 号建造物前にたつ石碑（MONUMENT 1）と共に出土した台座付柱状石彫（MONUMENT 10, 11），同 J7-4B-4 号建造物の床面を掘って埋められた22号供物と共に出土した台座付柱状石彫（MONUMENT 5），カミナルフユ遺跡先古典期後期の E-Ⅲ-3 号建造物内から出土した台座付柱状石彫（PEDESTAL 3）を考慮すると，先古典期後期以前には確実にジャガーや人を形象した四脚付方形台座若しくは方形台座を持つ台座付柱状石彫がつくられていた。古典期前期には出土例がないが，古典期後期にはビルバオ遺跡の MONUMENT PLAZA において他の石彫と共に出土している。報告のように様々な石彫の破片や完形品と共に出土しているならば，必ずしも古典期後期につくられたとは限らない。イサパ遺跡の古典期後期113号建造物と関連して出土した台座付柱状石彫を考慮すると，古典期後期にも台座付柱状石彫は使われていた可能性はある。また，タフムルコ遺跡の台座付柱状石彫は器形や主題が他とは異なること，この遺跡の近くには先古典期の遺跡がないことを考慮するならば，後古典期に台座付柱状石彫がつくられていた可能性は考えられる。一方，エル・トルニヨ遺跡14号建造物出土の台座付柱状石彫は像部の形，出土状況から古典期後期に属すると考えられる。低い方形台座，細身で柔らかな曲線を持つ人物像部は古典期後期台座付柱状石彫の特徴といえる。

トゥーラ遺跡出土台座付柱状石彫は，同遺跡出土の他の石彫と同じ要素を持つ，この遺跡独自の石彫といえるであろう。トゥーラ遺跡は古典期後期～後古典期に属しており，この石彫もこの時期に相当する可能性が高い。また，ロス・バリレス遺跡出土の台座付柱状石彫は，古典期後期に相当する時期（500-800A.D.）とされている。この石彫は像部の特徴からパナマ地域特有の石彫といえる。

以上のように台座付柱状石彫の分布とその時期を検討すると，カミナルフユ遺跡を中心に分布し，先古典期後期が中心となる。一方，カミナルフユ遺跡は人とジャガーが中心で，オポッサム，猿，鳥，ワニはない。ところで，マヤ低地に台座付柱状石彫の出土例はないが，ジャガー形象台座付柱状石彫が出土したオコテペケ地域はコパン遺跡に近いこと，コパン遺跡ではオルメカ期の遺構遺物が出土していることも考慮すると，マヤ低地でも今後出土する可能性はある。

ハリスコ州立博物館所蔵の台座付柱状石彫は幾何学文が浅浮彫で表現される円柱状軸部の上に低い円形台座をつくり，その上に両手を腹にあてた人物が表現される。これらの要素はマヤ南部を中心とした地域に分布する台座付柱状石彫にはない。この石彫がハリスコ州が属するメキシコ西部地方から出土したものならその系譜をたどる必要がある。先古典期，南米のコロンビアなどに分布する縦抗墓はメキシコ西部地方でも検出されている。他にも南米地域の文化と共通する要

素がメキシコ西部地方にある。このように考えると，南米とメキシコ西部地方との間に何らかの交流があったことは考えられる。そして，マヤ南部を北上するときに台座付柱状石彫もメキシコ西部地方にもっていかれた可能性はある。今後類例が増えることを期待したい。

ところで，ラ・ベンタ遺跡では，メキシコ湾岸に分布する大型のテーブル状祭壇石が出土しており，なかには祭壇石のテーブル状部分にジャガーの浮彫がされている例もある。一方，ジャガー形象台座付柱状石彫はそのジャガーの浮彫部分がテーブル状祭壇の上に丸彫りで表現されたものとみなせば，同じ主題を扱っていることになる。また，カミナルフユ遺跡 PEDESTAL 7 の台座部下の軸部にはメキシコ湾岸の大型テーブル状祭壇石の壁龕部分の形に線刻が施されている。イサパ遺跡の先古典期の石碑では，上下に枠をつくり，その間に物語的な場面を浮彫りし，その上枠にはしばしば台座付柱状石彫と同じような渦巻文一対がみられる。この上枠は，物語的な場面に表現される人物たちの上を区画するためと考えるならば，台座付柱状石彫は軸部で台座と像部を高みに上げその上の人物や動物を表現していると考えられる。そして，これらの人物や動物は，イサパ遺跡の石碑に表現される人物たちよりもより高い場所にいることを示している可能性がある。

おわりに

マヤ低地のコパン遺跡やキリグア遺跡では，古典期後期に凝灰岩や砂岩などで壮麗な石碑や祭壇石をつくるがその初期には固い石を使っており，時期による石材の変化が観察できる。一方，カミナルフユ遺跡では凝灰岩や砂岩のような柔らかい石よりも非常に固い石を多用している。また，コパン遺跡では王の系譜はテオティワカンにつながる可能性も考えられており，石材の変化はこうした政治的な変化に対応したものであったか。それとも，石工技術の問題なのだろうか。

マヤ低地では石碑と祭壇石の組合せは先古典期文化から継承されるが，この台座付柱状石彫を含むカミナルフユ遺跡で花開いた多彩な石彫文化全体は受け継がない。一方，エル・ポルトン遺跡で石碑と共に出土した台座付柱状石彫が石碑と関連があるならば，台座付柱状石彫は支配者層と密接な関係を持っていた可能性が高い。また，この遺跡はグァテマラ高地と低地の中間地点にある先古典期後期までの遺跡である。そして，マヤ低地で最初に記録された日付がティカル遺跡29号石碑の西暦292年であることを考え合わせると，カミナルフユ遺跡で栄えた石彫文化がマヤ低地に下がるときに石彫文化自体が取捨選択された可能性が高い。碑文のマヤ文字研究によれば，石碑は政治的若しくは歴史的な事件を記録するためのものであり，マヤ低地でも継続して記録用に使用された。しかし，他の石彫は在地の精神文化と密接な関係を持っていた可能性が高く，マヤ低地に下がるに際して捨てられたのかもしれない。何れにせよ，先古典期後期から古典期前期に移る際には大きな変動があったと考えられる。

また，メソアメリカ地域には軸部と像部よりなる石彫もあるが，層位学的に時期が決定できるような資料はない。シン・カベーサ遺跡 MONUMENT 1—3 では，台座部は殆ど整形していな

いか整形してあっても非常に粗く円柱状にしてあるのみである。これらの石彫は先古典期に属すると考えられているが，層位学的に確認はされていない。マヤ南部地域の他遺跡でも同様の石彫が出土している他に，モタグア川流域のキリグア遺跡でも猿を形象した軸部と像部だけの石彫がある（Sharer, 1990)。また，カミナルフユ遺跡 PEDESTAL 4 は軸部と像部からなる石彫でサン・ホセ・ピヌーラ遺跡台座付柱状石彫のように角張った人物像部を持ち，キリグア遺跡他の軸部と像部だけの石彫とは大きく異なる。今後，軸部と像部だけの石彫についても台座付柱状石彫との関連から検討を加える必要がある。

AGRADECIMIENTO

Deseo hacer constar mi profundo agradecimiento a las siguientes instituciones y personas particulares, que de una u otra manera prestaron su valiosa colaboración, así como a aquellas que podria haber accidentalmente omitido.

Dr. Edwin M. Shook
Ministerio de Cultura y Deporte de Guatemala
Instituto de Antropología e Historia de Guatemala
Museo Nacional de Arqueología y Etnología de Guatemala
Museo Popol Vuh
Arqueólogo Miguel Orrego Corzo

謝辞

本稿における石彫資料の整理及び分析は平成8年度科学研究費補助金（奨励研究A　研究代表者　伊藤伸幸　課題番号　08710261）を使用した。

参考文献

Acosta, Jorge R.
1957 "Resumen de los informes de las exploraciones arqueológicas en Tula, Hidalgo durante IX y X temporadas, 1953-54", *Anales del* ***INAH 9***, pp.119-169.

Baudez, F. Claude.
1976 ***America central.*** Barcelona.

Brook, Federico & Vittorio Minardi.
1976 ***Arte Precolombina Costa Rica/Panama.*** Rome.

Dutton, Bertha P. and Hulda R. Hobbs.
1943 ***Excavations at Tajumulco, Guatemala.*** *Monographs of the School of American Research* No.9. Santa Fe, New Mexico.

Fuente, Beatriz de la. y Nelly Gutierrez Solana.
1980 ***Escultura huasteca en piedra.*** *Cuadernos de historia del arte 9.* Instituto de Investigaciones Estéticas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Fuente, Beatriz de la., Silvia Trejo. y Nelly Gutierrez Solana.
1980 ***Escultura en piedra de Tula.*** *Cuadernos de historia del arte 50.* Instituto de Investigaciones Estéticas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Heizer, Robert F., John A. Graham. and Lewis K. Napton.
1968 "The 1968 Investigations at La Venta", *Contributions of the University of California Research Facility* No.5, pp.127-154.

Hoopes, John W.
1996 "Settlement, Subsistence, and the Origins of Social Complexity in Great Chiriqui".
In ***Paths to Central American Prehistory,*** edited by Frederick W. Lange, pp.15-47.
University of Colorado, Niwot, Colorado.

Lothrop, Samuel Kirkland.
1921 "The Stone Statues of Nicaragua". *American Anthropologist* No.23, pp.311-319.
1933 ***Atitlan: An Archaeological Study of Ancient Remains on the Borders of Lake Atitlan, Guatemla.*** *Carnegie Institution of Washington, Publication* No.444. Washington D.C.

Lowe, Gareth W., Thomas A. Lee, Jr. and Eduardo Martínez Espinosa.
1982 ***Izapa: An Introduction to the Ruins and Monuments.*** *Papers of the New World Archaeological Foundation* No.31. Brigham Young University, Provo, Utah.

Miles, Susan W.
1965 "Sculpture of the Guatemala-Chiapas Highlands and Pacific Slopes, and Asociated Hieroglyphs". In ***Handbook of Middle American Indians Vol.2,*** edited by Gordon R. Willey, pp.237-275. Austin.

Milbrath, Susan.
1979 ***A Study of Olmec Sculptural Chronology.*** *Studies in Pre-Columbian Art & Archaeology* No.23. Dumbarton Oaks, Washington, D.C.

Navarrete, Carlos.
1967 "Notas de la arqueologia Chiapaneca". *Instituto de Ciencias y Artes de Chiapas* 18, pp. 7-19.

Navarrete, Carlos., Thomas A. Lee Jr. y Carlos Silva Rhoads.
1993 ***Un catalogo de frontera.*** Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Norman, V. Garth.
1976 ***Izapa Sculpture, Part 2: Text.*** *Papers of the New World Archaeological Foundation* No.30.

Brigham Young University, Provo, Utah.

Parsons, Lee Allen.
1967 ***Bilbao, Guatemala: An Archaeological Study of the Pacific Coast Cotzumalhuapa Region Vol.1.*** *Publications in Anthropology* 11. Milwaukee Public Museum.
1969 ***Bilbao, Guatemala: An Archaeological Study of the Pacific Coast Cotzumalhuapa Region Vol.2.*** *Publications in Anthropology* 12. Milwaukee Public Museum.
1986 ***The Origin of Maya Art: Monumental Stone Sculpture of Kaminaljuyu, Guatemala, and the Southern Pacific Coast.*** *Studies in Pre-Columbian Art & Archaeology* 28. Dumbarton Oaks, Washington D.C.

Richardson, Francis B.
1940 "Non-Maya Monumental Sculpture of Central America". In ***The Maya and Their Neighbors,*** edited by Clarence Hay., Ralph L. Linton., Samuel K. Lothrop., Harry L. Shapiro and George C. Vaillant., pp.395-416. New York.

Sharer, Robert J.
1990 ***Quirigua: A Classic Maya Center & Its Sculptures.*** Durham, North Carolina.

Sharer, Robert J. and David W. Sedat.
1987 ***Achaeological Investigations in the Northern Maya Highlands, Guatemala: Interaction and Development of Maya Civilization.*** *University Museum Monograph* 59. University Museum, University of Pennsylvania, Philadelphia.

Shook, Edwin M.
1951 "Guatemala". *Carnegie Institution of Washington, Year Book* 50, pp.240-241.

Solis, Felipe.
1981 ***Escultura del Castillo de Teayo, Veracruz, México.*** *Cuadernos de historia del arte* 16. Instituto de Investigaciones Estéticas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Stone, Doris.
1976 ***Pre-Columbian Man Finds Central America.*** Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University, Cambridge, Massachusetts.

Stirling, Matthew W.
1943 ***Stone Monuments of Southern Mexico.*** *Smithsonian Institution, Bureau of American Ethnology, Bulletin* 138. Washington D.C.

Tejeda, Antonio.
1947 "Drawing of Tajumulco Sculptures" *Notes on American Archaeology and Ethnology, Carnegie Institution Division of Historical Research* No.77, pp.107-121.

Trejo, Silvia.
1989 ***Escultura huasteca de Rio Tamuin.*** Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Williams, Eduardo.
1992 ***Las piedras sagradas: Escultura prehispánica del Occidente de México.*** El Colegio de Michoacan, Michoacan.

出土地，石彫名	時　期	軸部	台　座　部	像　　部	図　版	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)
メキシコ西部地方？	不明	円柱浮彫	円形	人，立像		90	—	—
リオ・タムイン遺跡	不明	角柱	方形	人，座像(正座)	図 4.1	91	22	26.5
カスティヨ・デ・テアヨ遺跡 MONUMENT 32	不明	角柱	方形	人，座像(両膝立)		59	22	28
トゥーラ遺跡	不明	角柱	方形，浮彫	人，立像	図 4.2	178	70	36
ラ・ベンタ遺跡 MONUMENT 40	先古典期中期以前	角柱	方形	人，座像(足投げ出し)	写真 1.1	74	46	28
エル・トルニヨ遺跡 MONUMENT 1	古典期後期	角柱	方形	人，立像		232	—	—
コミタン遺跡	不明	角柱	方形(椅子状)	人，座像(椅子)	図 4.5			
フィンカ・サン・マテオ遺跡	不明	角柱線刻	方形，線刻	人，座像(両膝立)	図 4.4	178	—	—
テナン・ロサリオ遺跡	不明	欠	方形，線刻	オポッサム，座像	図 4.3	47	—	—
イサパ遺跡								
MISCELLANEOUS MONUMENT 4	古典期後期以前	角柱	方形，浮彫	人，座像(正座)	図 4.6	300	75	60
MISCELLANEOUS MONUMENT 41	後古典期前期以前	欠	方形	ジャガー，座像		25	11	10
MISCELLANEOUS MONUMENT 42	後古典期前期以前	角柱	欠	欠		50	11.5	8.5
MISCELLANEOUS MONUMENT 43	後古典期前期以前	角柱	欠	欠		43	25	10
シビナル遺跡	不明	角柱	方形，四脚，二段	人，座像(正座)	写真 1.4	62	—	—
シビナル遺跡	不明	角柱	方形	ジャガー，座像		—	—	—
エル・シティオ遺跡	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	図 9.2	90	20	23
タフムルコ遺跡	不明	円柱	方形，線刻	人，座像(両膝立)	図 4.7	—	—	—
コアテペケ地域	不明	角柱	方形	猿，座像(両膝立)	写真 4.6	71	—	—
コアテペケ地域	不明	角柱	方形	猿，座像(両膝立)		77.5	—	—
コアテペケ地域	不明	角柱	方形	ジャガー，座像		62	—	—
アバフ・タカリク遺跡	不明	円柱	方形，二脚，渦巻文	ジャガー，座像	図 9.4	21.5	12	12
サン・フランシスコ・サポティトラン遺跡	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	ジャガー，座像	図 8.2	142	25.5	24
フィンカ・チカヤル遺跡	不明	角柱	方形	人，座像(左膝立)		—	—	—
フィンカ・チカヤル遺跡	不明	円柱	円形	人，座像				
フィンカ・チカヤル遺跡	不明	角柱	？	人，座像				
デモクラシアーティキサテ地域	不明	角柱	方形，四脚	猿，座像(両膝立)	図11.3	82	9	14
ティキサテ遺跡	不明	角柱	方形，渦巻文	ジャガー，座像	写真 2.3	87	—	—
ティキサテ遺跡	不明	円柱	方形	猿，座像(両膝立)	写真 4.7	72	—	—
ビルバオ遺跡								
MONUMENT 64	古典期後期	角柱	欠	欠		143	30	35
MONUMENT 68	古典期後期	角柱	方形	鳥		98	14	11
サンサ・ルシア・コツマルワパ地域	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	人，座像(左膝立)	図 5.3	20	18	14
エスクィントラ遺跡	不明	角柱	方形	人，座像(右膝立)	図 5.4	67	28	27
パトゥン・チマルテナンゴ遺跡	不明	角柱	方形，四脚	人，座像(正座)	図 9.1	89	26	26
カミナルフユ遺跡								
PEDESTAL 1	先古典期中期以前	角柱	欠	欠		93	19	15.5
PEDESTAL 2	先古典期中期以前	角柱	欠	欠		140	11.5	16.5
PEDESTAL 3	先古典期後期以前	角柱	方形，二脚，渦巻文	ジャガー，座像	図 9.3	32	17	12
PEDESTAL 5	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	ジャガー，座像		74	—	—
PEDESTAL 6	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	人，座像(左膝立)	図 6	134	32	25
PEDESTAL 7	不明	角柱線刻	方形，四脚，渦巻文	人，座像(足投げ出し)	図 7.1	77	55	40
	先古典期後期？	角柱	方形，四脚，渦巻文	人，座像(右膝立)	図 5.5	27.5	28	17
	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	ジャガー，座像		29	19	13
	不明	角柱	方形	人，座像(左膝立)	図 5.2	54	23	28
	不明	円柱	円形，浮彫	人，立像	図 7.2	15	13	12

出土地，石彫名	時　期	軸部	台　座　部	像　　部	図　版	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)
サン・ホセ・ピヌーラ遺跡	不明	角柱	方形	人，座像 (足投げ出し)	写真 1.3	165	—	—
エル・ポルトン遺跡								
MONUMENT 5	先古典期 後期以前	角柱	方形	人，座像		58	38	32
MONUMENT 9	先古典期 後期以前	角柱	欠	欠		144	44	16
MONUMENT 10	先古典期 後期以前	角柱	方形，四脚，二段	人，座像(正座)	図 8.1	116	27	19
MONUMENT 11	先古典期 後期以前	角柱	方形，四脚，二段	人，座像	写真 1.8	86	20	20
MONUMENT 12	不明	角柱	方形，四脚，二段	人，座像(両膝立)		88	30	—
MONUMENT 22	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	人，座像(右膝立)	図 5.6	58	31	21
MONUMENT 23	不明	不明	方形	人，座像 (足投げ出し)		75	32	—
MONUMENT 27	先古典期 後期以前	角柱	欠	欠		182	40	24
ハラパ遺跡	不明	円柱	円形，浮彫	オポッサム，立像	写真 4.1	240	—	—
オコテペケ遺跡	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	図 4.8	140	—	—
チャルチュアパ遺跡カサ・ブランカ地区	不明	角柱	方形，四脚	ジャガー，座像	図10	121	47	57
サパテラ島遺跡	不明	角柱	方形，線刻	猿，座像(両膝立)		140	—	—
サパテラ島遺跡	不明	円柱	円形，線刻	人，座像(両膝立)		180	—	—
ロス・バリレス遺跡	500 -800A.C.	円柱	円形	人，立像 (2人，肩車)	図 4.9	225	50	—
チリキ地域	500 -800A.C.	円柱	円形	人，立像		200	48	—
出土地不明								
	不明	円柱	円形，浮彫	ジャガー，座像	写真 3.4	71	—	—
	不明	欠	欠	ジャガー，座像		18.5	16.5	41.5
	不明	角柱	方形，二脚，渦巻文	ジャガー，座像	写真 2.2	63	16	20.5
	不明	角柱	方形，四脚，渦巻文	ジャガー，座像	写真 3.8	64	17	14
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.6	113	21.5	18
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.7	33	16	19
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.2	53	19	24
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 2.8	63	21	16.5
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 2.1	29	7.5	8
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.1	58	23.5	25
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像		43	15	17
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 2.6	100	20	27
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 2.5	87	16	17
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.3	54	14.5	22
	不明	角柱	方形	ジャガー，座像	写真 3.5	84	11	13
	不明	角柱	方形，二脚，渦巻文	ジャガー，座像	写真 2.4	92	18	15
	不明	角柱	方形，人頭	ジャガー，座像	写真 2.7	88	17	20
	不明	角柱	方形	人，座像 (足投げ出し)	写真 1.2	—	—	—
	不明	角柱	方形	人，座像(正座)	写真 1.6	43.5	—	—
	不明	角柱	方形	人，座像(正座)	写真 1.5	134	14.5	14
	不明	角柱	方形	人，立像	写真 1.7	103	26	10
	不明	角柱	方形	人(生死)，座像(左膝立)	図 5.1	42	14.5	12.5
	不明	角柱	方形	人(生死)，座像(左膝立)	写真 1.9	47.5	19	14
	不明	円柱	円形，浮彫	オポッサム，座像	図11.2	36	11	11
	不明	角柱	方形	オポッサム，座像	写真 4.4	42	11	16
	不明	角柱	方形，二脚，渦巻文	オポッサム，座像	写真 4.3	77	16	13
	不明	欠	欠	オポッサム，立像	写真 4.2	25	10	12
	不明	角柱	方形	猿，座像(両膝立)	写真 4.5	40.5	15	17
	不明	円柱	方形(棒状)	鳥	図11.4	91	27	32
	不明	角柱	方形，線刻	蛇	写真 4.8	105	15	35.5
	不明	円柱	円形	ワニ立像(+子供2)	図11.1	103	15	15

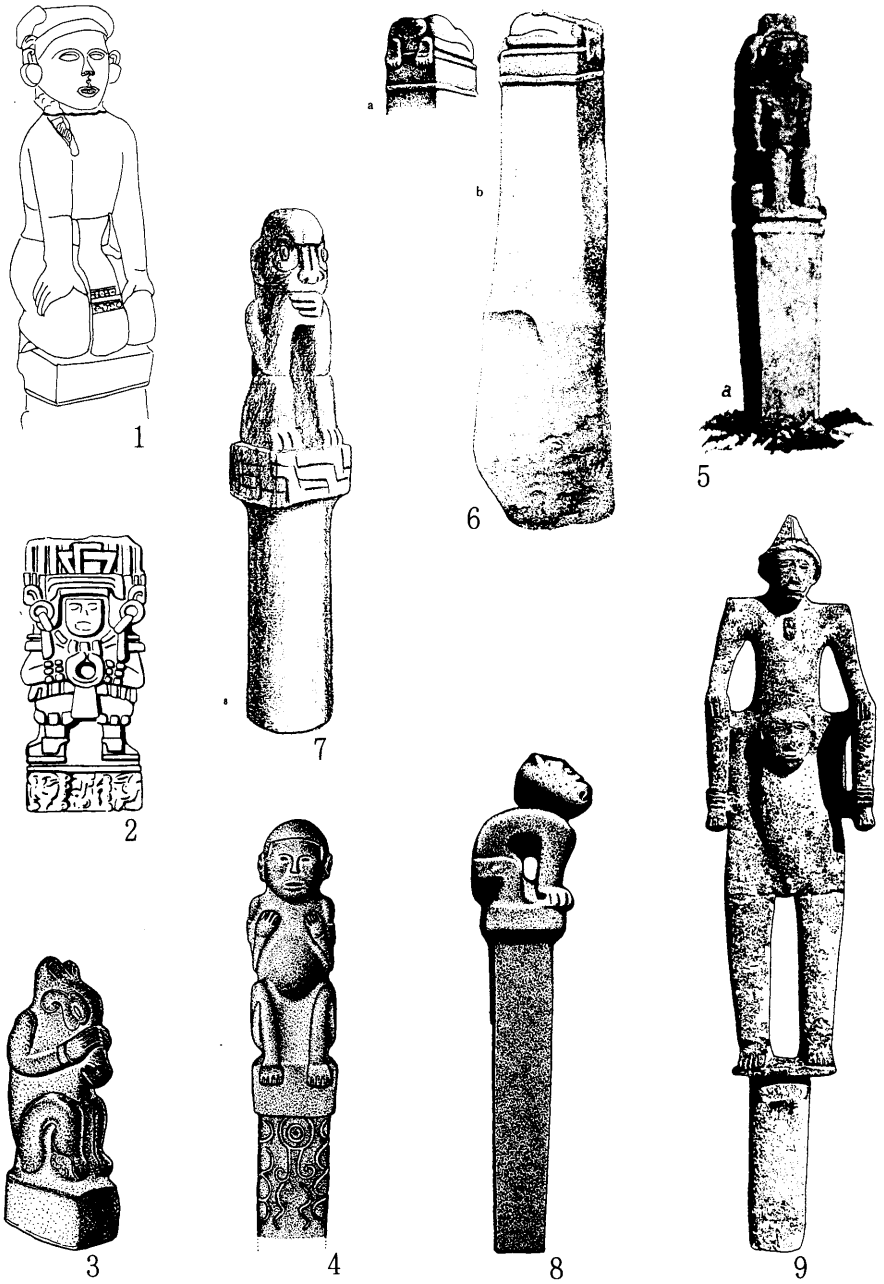

図4　各遺跡で出土した台座付柱状石彫

1．リオ・タムイン（Trejo, 1989, fig.4.a），2．トゥーラ（Acosta, 1957, lamina 28），3．テナン・ロサリオ（Navarrete, 1967, fig.4.B），4．フィンカ・サン・マテオ（Navarrete, 1967, fig.2），5．コミタン（Lothrop, 1921, fig.69.a），6．イサパ MISCELLANEOUS MONUMENT 4（Norman, 1967, fig. 5.31），7．タフムルコ（Tejeda, 1947, pl.12），8．オコテペケ（Richardson, 1940, fig.36a），9．ロス・バリレス（Hoopes, 1996, fig.2.3）

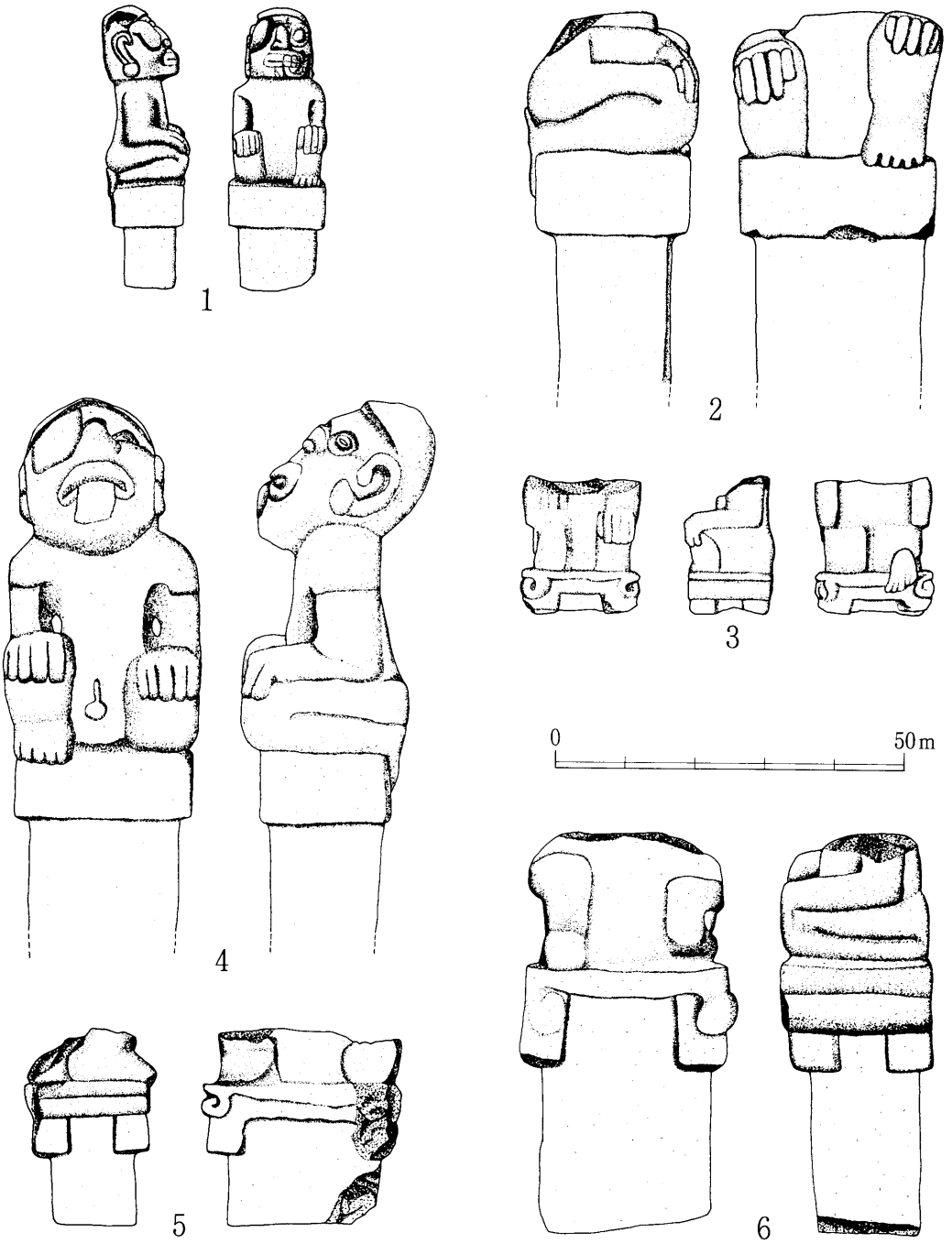

図5 台座付柱状石彫実測図

1．出土地不明，2．カミナルフユ遺跡出土，3．サンタ・ルシア・コツマルワパ地域出土，4．エスクィントラ地域出土，5．カミナルフユ遺跡出土，6．エル・ポルトン遺跡 MONUMENT 22

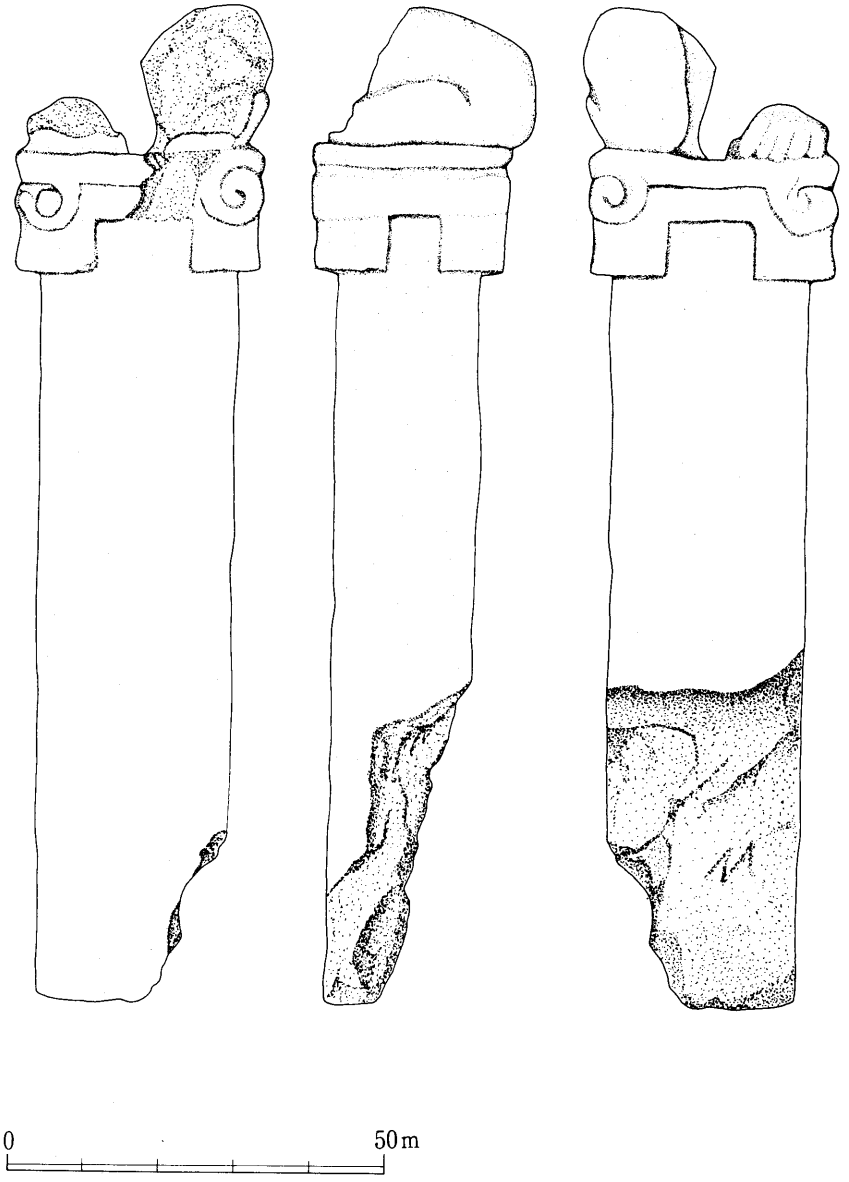

図6　カミナルフユ遺跡台座付柱状石彫（PEDESTAL 6）実測図

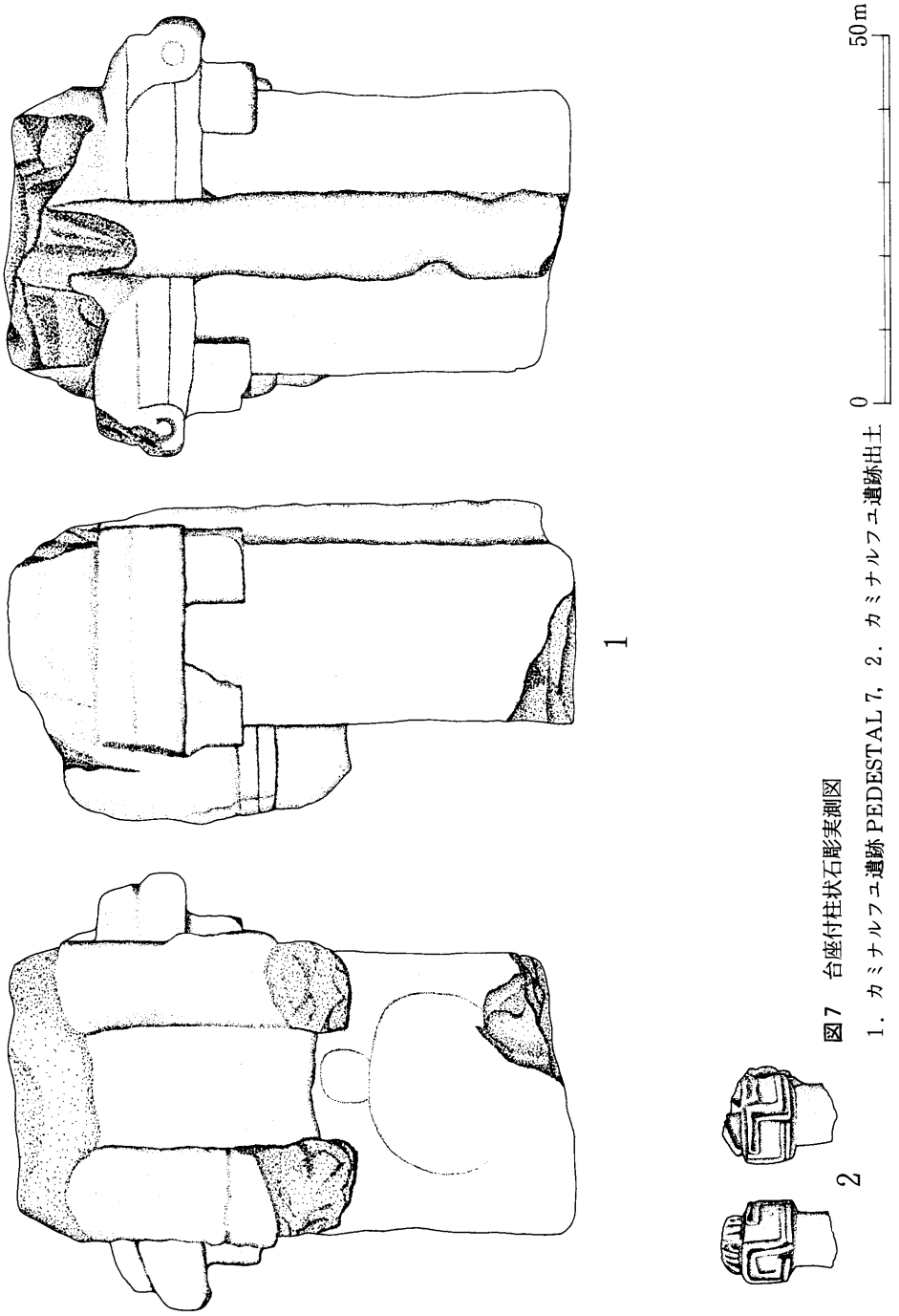

図7 台座付柱状石彫実測図

1．カミナルフユ遺跡PEDESTAL 7，2．カミナルフユ遺跡出土

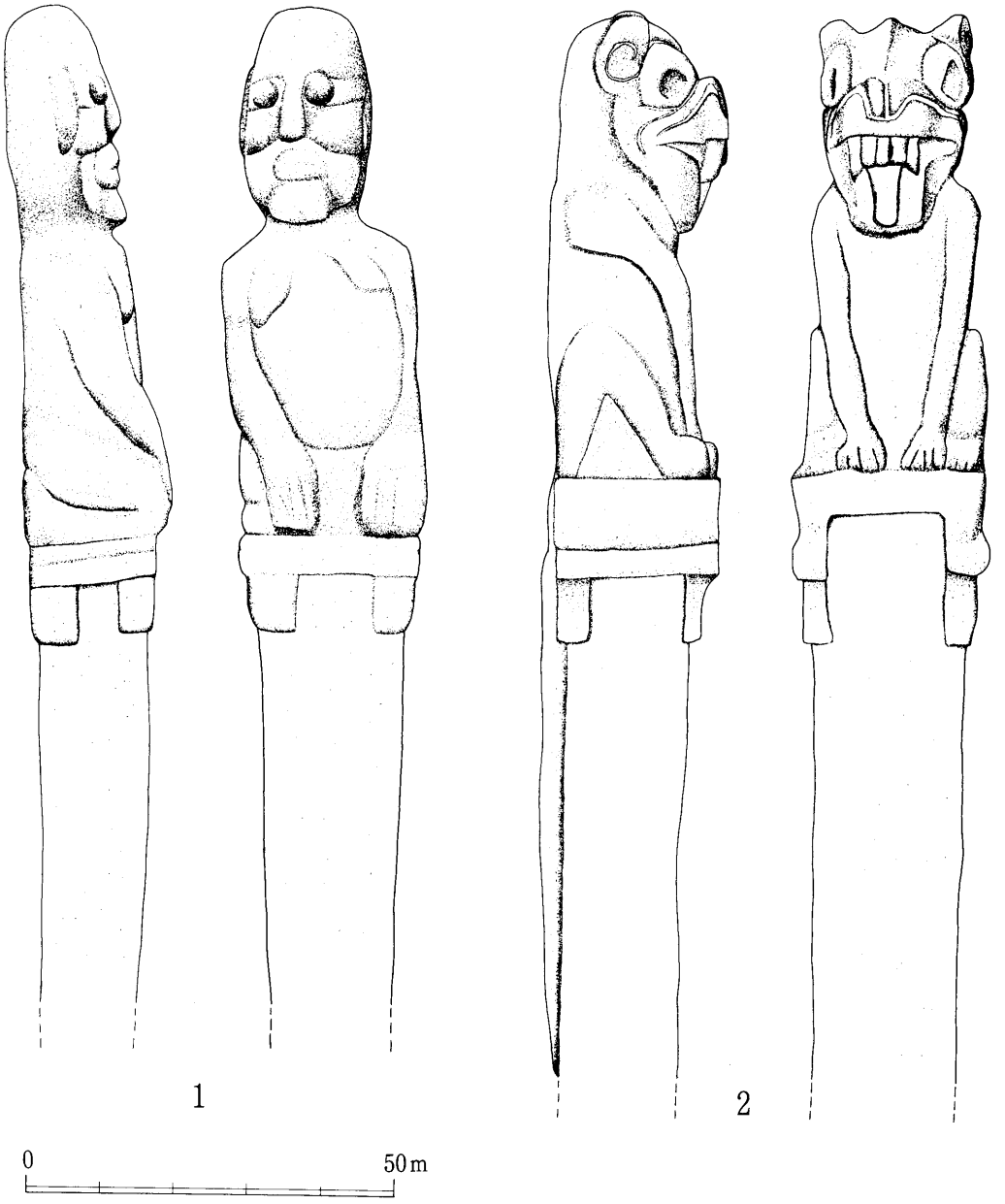

図8　台座付柱状石彫実測図

1．エル・ポルトン遺跡 MONUMENT 10，2．サン・フランシスコ・サポティトラン遺跡出土

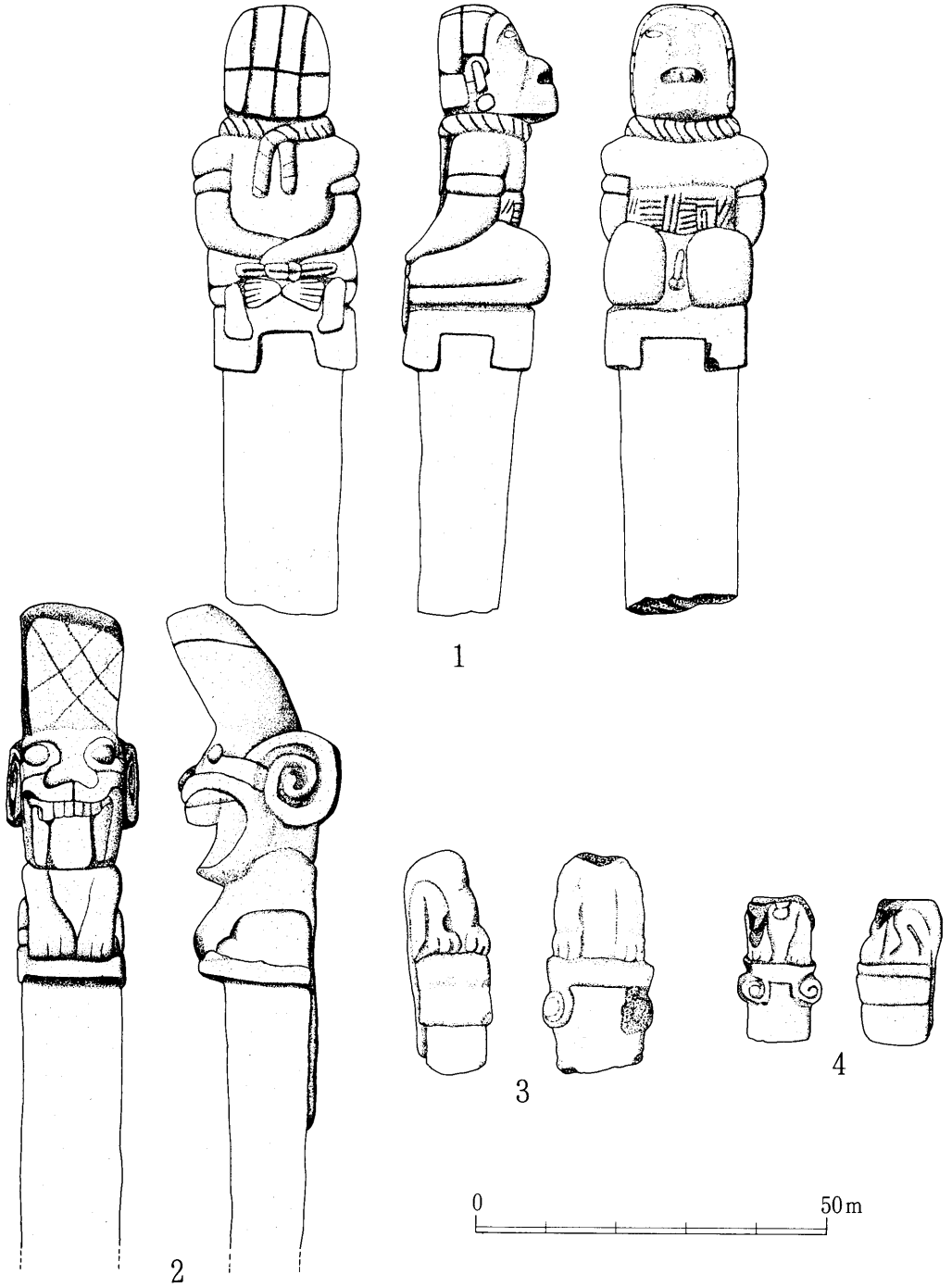

図9 台座付柱状石彫実測図

1．パトゥン・チマルテナンゴ遺跡，2，エル・シティオ遺跡，3．カミナルフユ遺跡 PEDESTAL 3，4．アバフ・タカリク遺跡出土

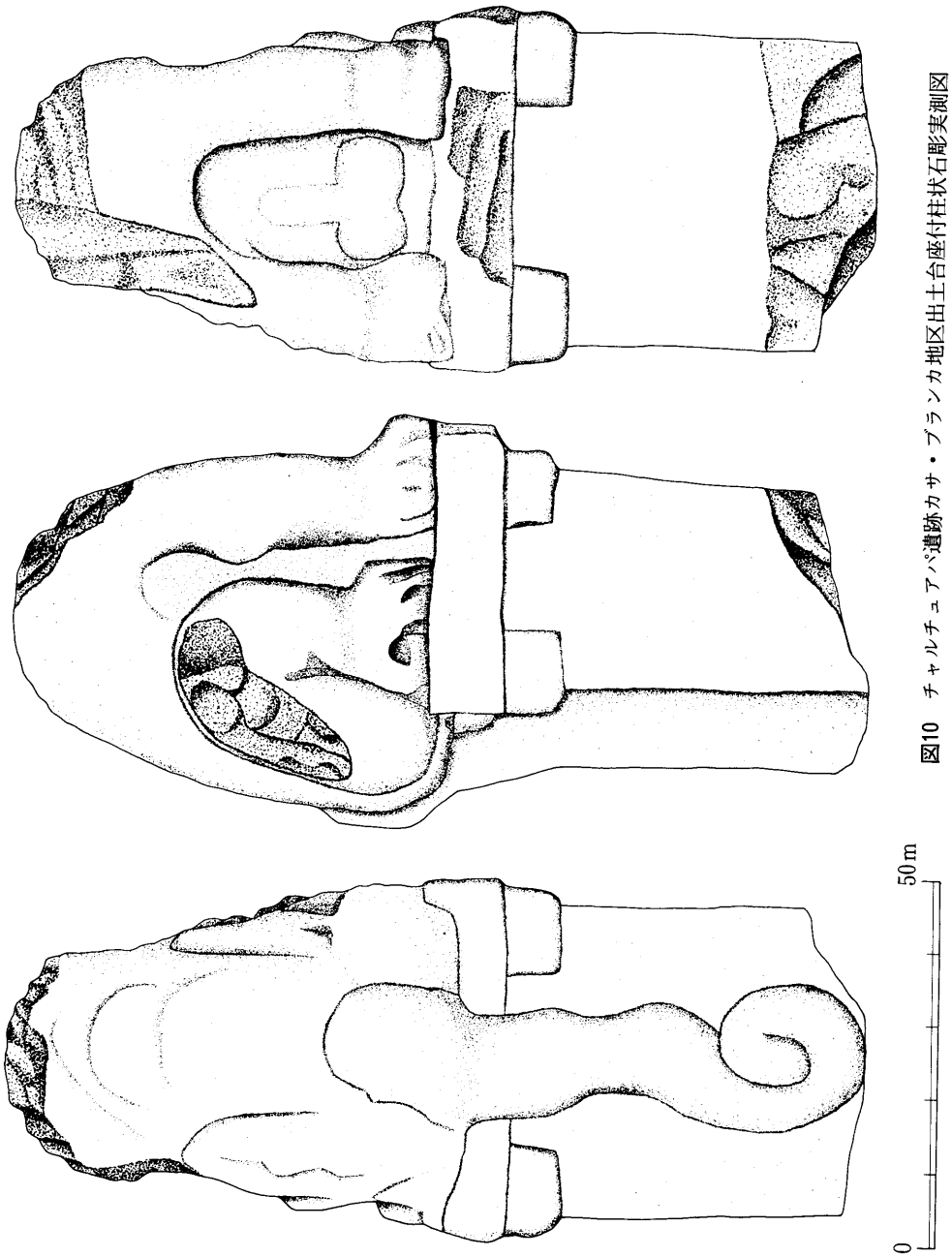

図10　チャルチュアパ遺跡カサ・ブランカ地区出土台座付柱状石彫実測図

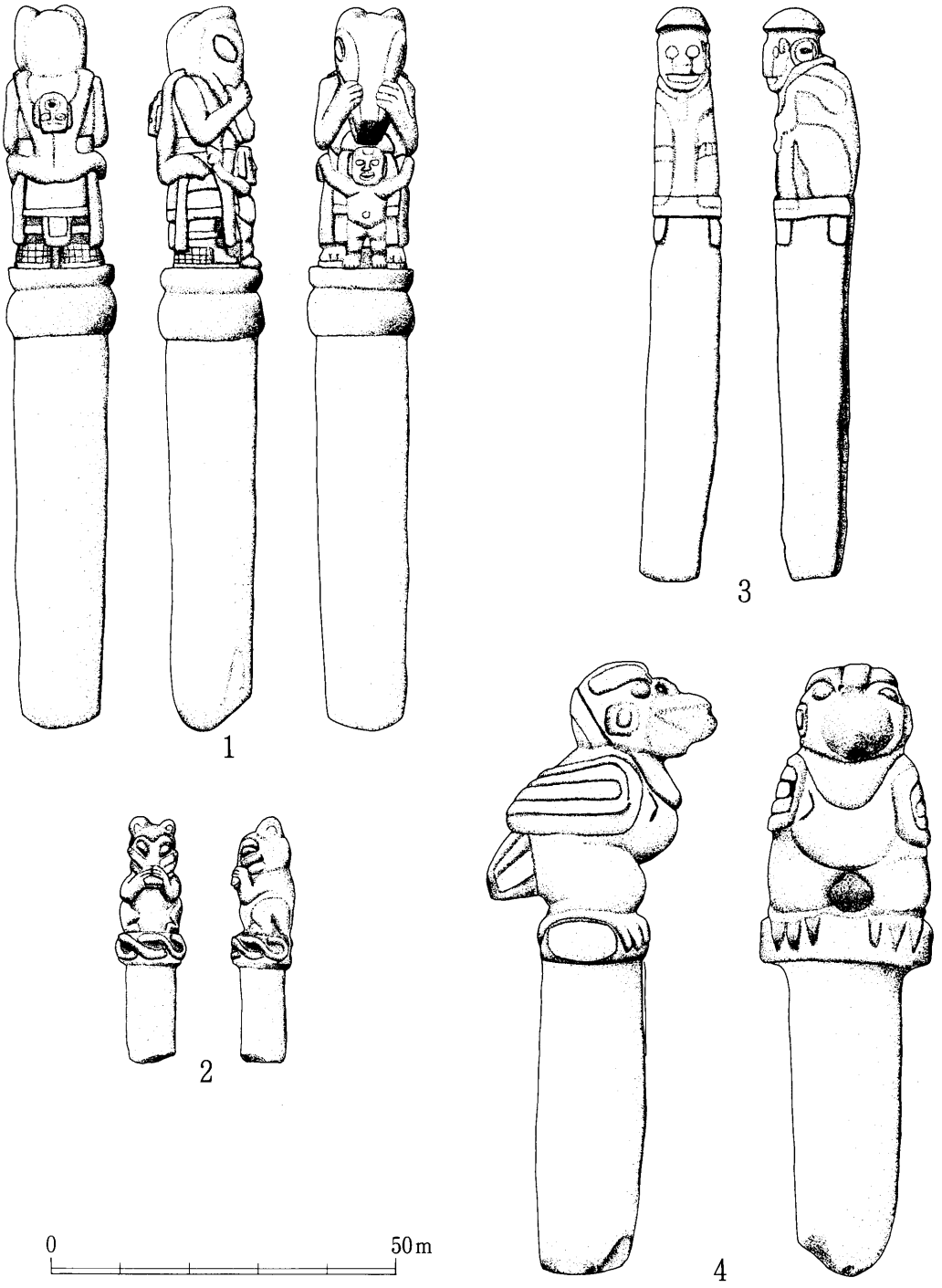

図11 台座付柱状石彫実測図

1．2．出土地不明，3．デモクラシアーティキサテ地域出土，4．出土地不明

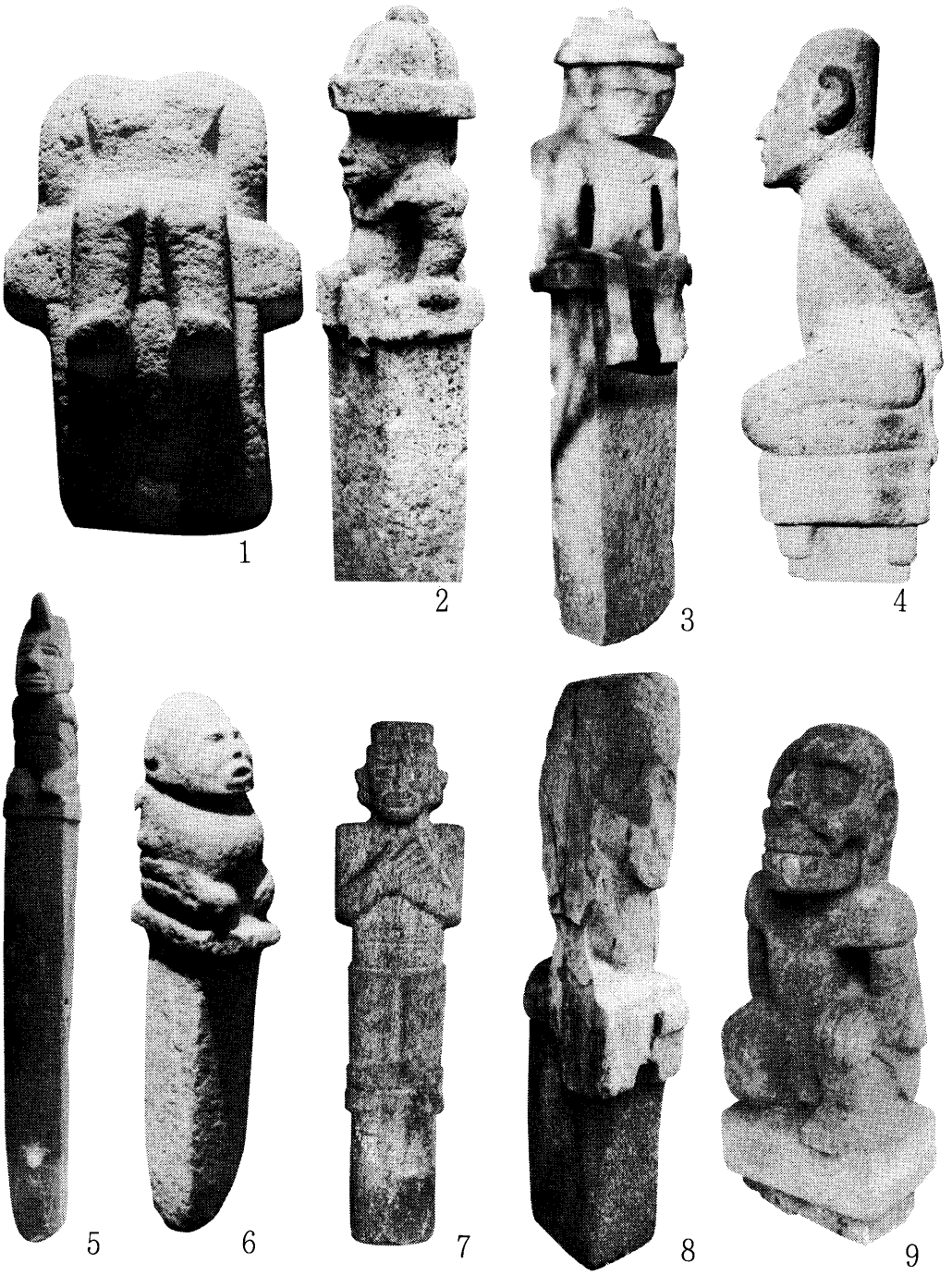

写真1　各遺跡で出土した台座付柱状石彫

1．ラ・ベンタ，3．サン・ホセ・ピヌーラ，4．シビナル，8．エル・ポルトン MONUMENT 11，5．6．7．出土地不明（2．3．6はシューク氏の撮影）

写真 2　各遺跡で出土した台座付柱状石彫

3．ティキサテ，1．2．4－8，出土地不明（3はシューク氏の撮影）

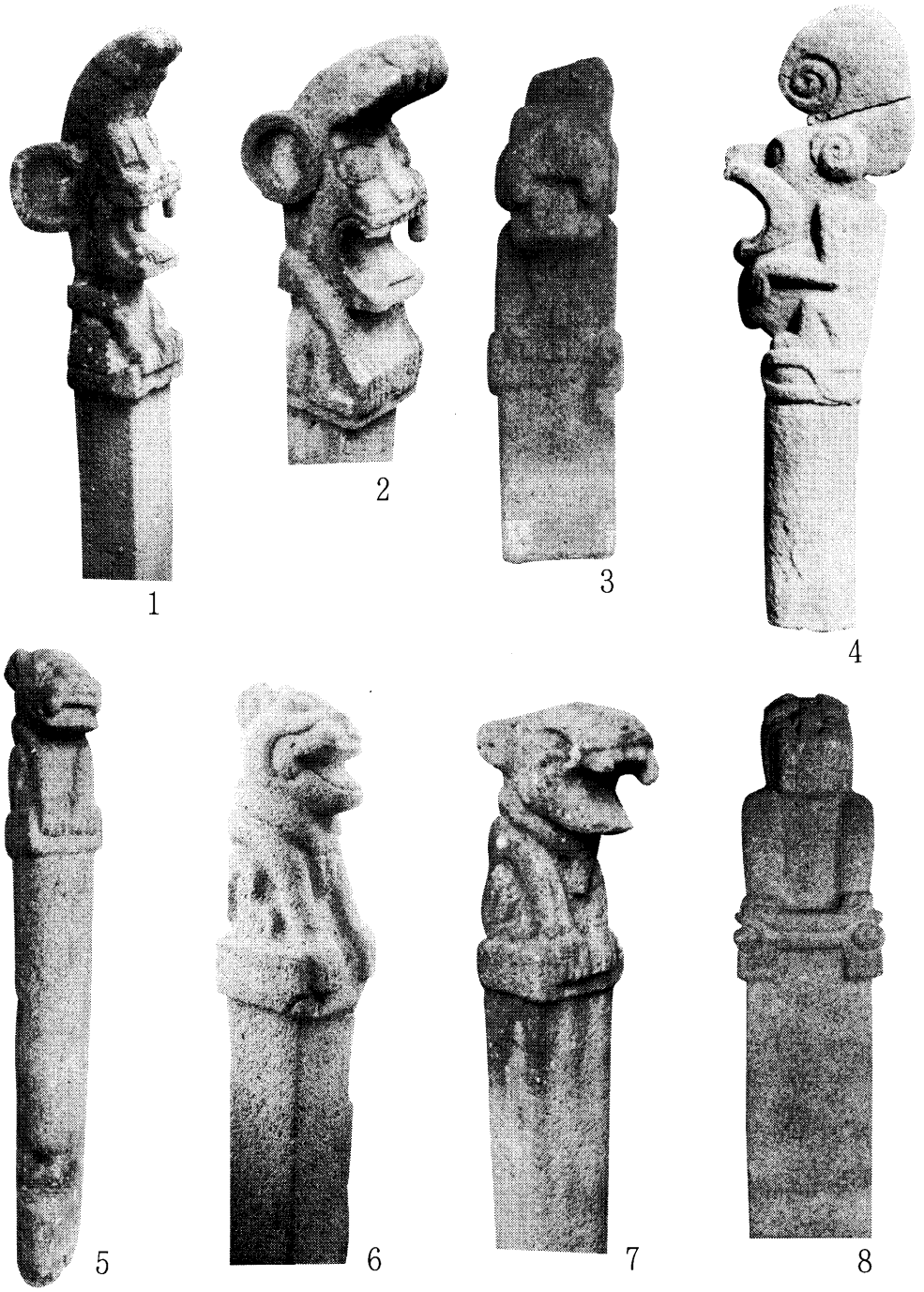

写真 3　出土地不明のジャガー形象台座付柱状石彫（4 はシューク氏の撮影）

写真4 各遺跡で出土した台座付柱状石彫

1．ハラパ，6．ティキサテ，7．コアテペケ，2-5，8．出土地不明（1．4．6．7はシューク氏撮影）